

授業 科目名	人体の構造（筋・骨・神経系の構造） Human Anatomy(1) (muscle, bone and nervous system)	履修年次： 必修：理・作1年	単位数： 1単位30時間 コード：RBB201	担当教員名： 科目責任者 山本 達也[脳神経内科医師](研究室：仁戸名9)
		実務経験のある教員による授業科目		金子 徹[リハビリテーション科医師](研究室：仁戸名2)
〔DP〕 実践に必要な知識 倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、人体の構造に関する基礎的な知識（総論）を学んだ上で、骨・関節・筋・神経系（中枢神経・末梢神経）などの解剖学的な知識を修得できることを目標に、以下のテーマで授業を進めていく。 骨・関節・筋 中枢神経 末梢神経				
〔授業の概要〕 人体の構造のうち骨・関節・筋・神経系（中枢神経・末梢神経）などの構造について解剖学的な知識を修得する。本科目は、講義に加え、各種標本などを用いた演習形式により、骨、関節、筋、中枢神経、末梢神経のそれぞれの構造についての理解を深めることを目的とする。リハビリテーション科医師、脳神経内科医師の実務経験に基づき骨、関節、筋、中枢神経、末梢神経の講義を行う。				
キーワード：骨、関節、筋、中枢神経、末梢神経				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	4/8	解剖学総論1	解剖学用語と人体の区分	山本 達也
第2回	4/15	解剖学総論2	人体の構成	金子 徹
第3回	4/22	解剖学総論3	人体の発生	金子 徹
第4回	5/13	骨・関節	骨・関節総論	金子 徹
第5回	5/20	骨・筋学1	骨筋学（上肢）	金子 徹
第6回	5/27	骨・筋学2	骨筋学（下肢）	金子 徹
第7回	6/3	中枢神経1	総論、髄膜、脳室	山本 達也
第8回	6/10	中枢神経2	大脳皮質、大脳白質	山本 達也
第9回	6/17	中枢神経3	中枢神経の血管	山本 達也
第10回	6/24	中枢神経4	大脳基底核、視床	山本 達也
第11回	7/1	中枢神経5	視床下部、大脳辺縁系、小脳	山本 達也
第12回	7/8	中枢神経6	脳幹、脊髄	山本 達也
第13回	7/22	末梢神経	末梢神経、自律神経	山本 達也
第14回	7/29	細胞の構造と機能	細胞分子生物学入門	山本 達也
第15回	7/30	まとめ	全体のまとめ	山本 達也
履修条件	特になし			
予習・復習	予習としてテキストを熟読のこと。復習にはノートの見直しを推奨。			
テキスト	野村 嶺編「標準理学療法学・作業療法学 解剖学（第5版）」医学書院			
参考書・参考資料等	井上貴央監訳「カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで」（西村書店） 「グレイ解剖学 原著第4版」塩田浩平 秋田恵一 監訳（ELSEVIER）			
学生に対する評価	定期試験（90%）、学習態度（10%）等により、総合的に評価する。			

授業 科目名	人体の構造 (脈管, 内臓, 感覚器の構造) (Human Anatomy )	履修年次: 必修:理・作1年	単位数: 1単位 30時間 コード: RBB202	担当教員名: 科目責任者 山本達也 (脳神経内科医師) (仁戸名研究室 9) 加瀬政彦(医師)(A210)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識 倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 理学療法, 作業療法を学習する上で重要な人体の構造に関する知識を習得する。本科目は, 系統解剖学として, 循環器系, 内臓学(消化器系, 呼吸器系, 泌尿器系, 生殖器系, 内分泌系等の器官), 感覚器系の基礎的な知識を中心とした構造を理解し, 説明できることを目的とする。				
〔授業の概要〕 人体について, 器官から個体までの構造を理解し, 考察できる能力を身につけることを目的にする。主に全身における内臓の構造と構成について系統的に学習し, それぞれがどのような位置関係にあるか修得する。脳神経内科医としての実務経験, 医学部における人体構造実習の経験に基づいて行う。				
キーワード: 消化器系, 呼吸器系, 泌尿器系, 生殖器系, 内分泌系, 頭蓋, 感覚器系				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	10/7	頭頸部1	頭蓋骨	山本 達也
第2回	10/21	胸部1	胸郭	加瀬 政彦
第3回	10/28	胸部2	心臓	加瀬 政彦
第4回	11/11	胸部3	気道, 肺	加瀬 政彦
第5回	11/18	腹部1	腹部概要, 腹壁	山本 達也
第6回	11/25	腹部2	胃, 十二指腸, 小腸, 大腸, 直腸, 肛門	山本 達也
第7回	12/2	腹部3	肝臓, 胆嚢, 膵臓, 脾臓	山本 達也
第8回	12/9	骨盤と会陰1	骨盤腔, 会陰, 膀胱	山本 達也
第9回	12/16	骨盤と会陰2	生殖器(男性, 女性)	山本 達也
第10回	12/23	内分泌系	下垂体, 副腎, 甲状腺	山本 達也
第11回	1/6	頭頸部2	口腔, 咽頭, 食道, 頸部	山本 達也
第12回	1/20	頭頸部3	脳神経(頭蓋外の構造)	山本 達也
第13回	1/27	頭頸部4	脳神経(頭蓋外の構造)	山本 達也
第14回	1/29	頭頸部5	感覚器(眼球, 耳)	山本 達也
第15回	2/3	まとめ	全体のまとめ	山本 達也
履修条件	特になし			
予習・復習	予習はテキストに目を通し, 復習は必ず行うことを推奨する。			
テキスト	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学第5版」野村巖 編集 (医学書院)			
参考書・参考資料等	「カラー人体解剖学 構造と機能: ミクロからマクロまで」井上貴央 監訳 (西村書店) 「グレイ解剖学 原著第4版」塩田浩平 秋田恵一 監訳(ELSEVIER)			
学生に対する評価	定期試験(90%) 学習態度(10%)			

授業 科目名	人体の構造実習 Human Anatomy (practice)	履修年次: 必修:理・作1年	単位数: 1単位45時間	担当教員名: 山本 達也
		実務経験のある教員による授業科目	コード:RBB203	[脳神経内科医師] (研究室:仁戸名9)、 金子 徹[リハビリテーション 科医師](研究室:仁戸名2)、 江戸 優裕[理学療法士]、 松尾 真輔[作業療法士]
〔DP〕 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 人体の構造を三次元的に理解する。局所解剖としての骨・筋・神経・血管・内臓器の立体的構造を、解剖学用語を用いて説明できることを目標とする。				
〔授業の概要〕 解剖学アトラス・骨格標本のスケッチを通して人体の局所解剖を理解する。また、臨床と関連づけて骨の構造・関節運動・脳神経画像を理解する。リハビリテーション科医師、脳神経内科医師、理学療法士、作業療法士の実務経験に基づき学修の支援を行う。				
キーワード:骨、筋、神経、血管、内臓器				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1,2回	10/2	頭頸部	頭部・頭蓋骨、頸部	山本 達也
第3,4回	10/9	脊柱	頸椎・胸椎・腰椎	金子 徹
第5,6回	10/16	脊髄	脊髄神経根と脊髄	金子 徹
第7,8回	10/23	上肢1、体幹	上肢帯、上腕、前腕、体幹	金子 徹 松尾 真輔
第9,10回	10/30	上肢2	手、上肢の神経・血管	金子 徹 松尾 真輔
第11,12回	11/6	下肢1	骨盤、大腿、下腿	金子 徹 江戸 優裕
第13,14回	11/13	下肢2	足部、下肢の神経・血管	金子 徹 江戸 優裕
第15,16回	11/20	胸部	胸郭、肺、心臓	山本 達也
第17,18回	11/27	腹部	消化管、肝臓、腎臓	山本 達也
第19,20回	12/4	骨盤	泌尿生殖器	山本 達也
第21,22回	12/11	脳	脳画像理解の基礎	山本 達也
第23回	12/18	神経解剖	神経系の画像検査	山本 達也
履修条件	「運動学」・「機能解剖学」と関連させて学修すること。			
予習・復習	予習・復習としてテキストを熟読のこと。			
テキスト	野村 嶺編「標準理学療法学・作業療法学 解剖学(第5版)」医学書院			
参考書・参考資料等	井上貴央監訳「カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで」西村書店 「グレイ解剖学 原著第4版」塩田浩平 秋田恵一 監訳(ELSEVIER)			
学生に対する評価	定期試験(50%)、スツヂ(40%)、学習態度(10%)により評価する。			

授業 科目名	人体の機能Ⅰ(動物性機能) (Human Physiology )	履修年次： 必修：理・作1年	単位数： 1単位 15時間 コード：RBB205	担当教員名： 笠置泰史 [医師] (非常勤講師室)
		実務経験のある教員による授業科目		
		〔DP〕 実践に必要な知識		
〔授業の到達目標及びテーマ〕 人体の正常機能についての知識とともに、生理学的な見方と思考力を習得します				
〔授業の概要〕まず細胞の一般的性質を概観する。さらに神経・筋などの興奮性組織の特性、その機能としての運動、感覚および自律機能、統合機能としての認知・行動について学び、それを分子的、生物学的基盤の上に基礎づけます。 キーワード：細胞の一般機能、シグナル伝達、膜電位、興奮伝導、シナプス伝達、シナプスの可塑性、反射、筋、興奮収縮連関、運動、協調運動、感覚、自律機能、認知、記憶、学習、統合機能				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	04/08	細胞の一般機能1	生命の分子組成・細胞膜および細胞小器官の機能	
第2回	04/15	細胞の一般機能2	各論：タンパク質合成系・エネルギー代謝系・細胞骨格系・シグナル伝達系など	
第3回	04/22	興奮する細胞1	静止電位・活動電位の成因	
第4回	05/13	興奮する細胞2	活動電位および伝導の特性	
第5回	05/20	細胞間コミュニケーション1	シナプス伝達およびシナプス統合	
第6回	05/27	細胞間コミュニケーション2	シナプス後細胞の調節と、シナプスの可塑性	
第7回	06/03	筋の収縮1	筋収縮の分子メカニズム・興奮収縮連関	
第8回	06/10	筋の収縮2	筋収縮の物理的諸特性とその基盤	
第9回	06/17	運動機能とその調節1	運動単位とその脊髄レベルでの統合	
第10回	06/24	運動機能とその調節2	脳幹および小脳における運動調節	
第11回	07/01	運動機能とその調節3	大脳皮質および基底核における運動調節	
第12回	07/08	感覚機能とその統合1	感覚総論・化学受容(嗅覚・味覚)	
第13回	07/22	感覚機能とその統合2	体性感覚	
第14回	07/25	感覚機能とその統合3	特殊感覚(視覚・聴覚)	
第15回	07/29	統合機能	認知と統合機能 大脳連合野 行動と意識の基盤 自律神経系と大脳辺縁系	
履修条件	特になし			
予習・復習	予習はテキストを熟読。復習はノートの見直し。			
テキスト	大地陸男『生理学テキスト』第9版(2022) 文光堂			
参考書・参考資料等	「標準生理学」第9版(2019) 本間 研一 監修(医学書院) 「ガイドン生理学(原著第13版)」John E. Hall 著(エルゼビア・ジャパン) 「カンデル神経科学 第2版(原著第6版)」エリックRカンデル他(MEDS) 「記憶のしくみ 上下」エリックRカンデル他(講談社ブルーバックス)			
学生に対する評価	筆記試験(85% 再試において口頭試問を実施する場合あり) 授業態度(15%)			

授業 科目名	人体の機能 II (植物性機能) (Human Physiology )	履修年次 :	単位数 :	担当教員名: 笠置泰史 [医師] (非常勤講師室)
		必修 : 理・作 1 年	1 単位 15 時間	
			コード:RBB206	
実務経験のある教員による授業科目				
〔DP〕 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 人体の正常機能についての知識とともに、生理学的な見方と思考力を習得します。				
〔授業の概要〕 生命の基本単位である細胞が、その中で適応を維持する内部環境としての体液について概観し、その恒常性を維持する各機能系、及びそれらの調節を担う系について、その分子的、生物学的基盤をもとに学びます。 キーワード: 植物性機能、Hb 酸素解離曲線、生体防御、体液性免疫、細胞性免疫、止血、凝固系、線維素溶解系、心筋、興奮伝導系、血圧、圧受容器反射、血管拡張物質、肺活量、一秒量、呼吸商、化学受容器反射、限外濾過、ネフロン、糸球体濾過量、アルドステロン、抗利尿ホルモン、蠕動運動、分節運動、管腔内消化、膜消化 ガストリン、インスリン、同化、異化、有酸素代謝、解糖系				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第 1 回	10/07	血液 1	血漿の機能 赤血球の機能	
第 2 回	10/21	血液 2	生体防御 / 免疫系 止血系	
第 3 回	10/28	心臓 1	ポンプ作用の力学的特性 心筋の特性	
第 4 回	11/11	心臓 2	興奮伝導系・心電図 心臓の調節	
第 5 回	11/18	循環系 1	循環の全身性調節 血圧 静脈還流	
第 6 回	11/25	循環系 2	循環の局所性調節 運動時の循環調節	
第 7 回	12/02	呼吸系 1	運動としての呼吸 呼吸生理学の諸指標	
第 8 回	12/09	呼吸系 2	換気の化学 呼吸調節	
第 9 回	12/16	腎機能 1	ネフロンの機能とその基盤	
第 10 回	12/23	腎機能 2	体液の量・浸透圧・組成・pH の調節	
第 11 回	01/07	消化・吸収・代謝系 1	消化管の運動・消化液の分泌・消化の調節	
第 12 回	01/20	消化・吸収・代謝系 2	同化と異化・基礎代謝量 各栄養素の代謝系と調節	
第 13 回	01/27	内分泌系 1	ホルモンとは?・ホルモンの調節系	
第 14 回	01/29	内分泌系 2	各論: 各ホルモンの分泌機序と調節	
第 15 回	02/03	生殖	性周期とそのホルモンによる調節 受精 分娩	
履修条件	特になし。			
予習・復習	予習はテキストを熟読。復習はノートの見直し。			
テキスト	大地陸男『生理学テキスト』第 9 版 (2022) 文光堂			
参考書・参考資料等	「標準生理学」第 9 版 (2019) 本間 研一 監修 (医学書院) 「ガイトン生理学 (原著第 13 版)」John E. Hall 著 (エルゼビア・ジャパン)			
学生に対する評価	筆記試験 (85% 再試において口頭試問を実施する場合あり) 授業態度 (15%)			

授業 科目名	人体の機能実習 (Physiological Practice)	履修年次: 必修:理・作2年	単位数: 1単位45時間	担当教員名: 大谷拓哉[理学療法士] (仁戸名研究室11) 稲垣武[理学療法士]、坂崎純太郎[理学療法士]、藤田佳男[作業療法士]、松尾真輔[作業療法士]、成田悠哉[作業療法士]、遠藤隆志(非常勤講師)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識, 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 1学年時に履修したリハビリテーション領域に必要な運動神経、感覚神経、呼吸循環の生理学の理論を理解します。実験を通して、人体の機能の再確認を行います。 実験の結果を統合する科学的思考能力の修得を進めます。				
〔授業の概要〕 運動、感覚、呼吸循環といった理学療法・作業療法を学習する上で重要な人体の機能について生理学的な実習・実験を通して理解を深めます。本科目では、電気生理学的手法、運動生理学的手法等を用い、学生同士の実習を行います。実験結果はレポートにまとめながら内容の理解を促すとともに、最終回にプレゼンテーションを行い、相互の内容の共有と理解の確認を図ります。				
キーワード: 電気生理学、神経生理学、運動生理学				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	4/16	オリエンテーション	実習内容、課題などについての説明	大谷拓哉
第2・3回	4/23	・筋電図 ・循環機能 ・視覚機能 ・未定	筋疲労など運動時の筋活動電位・変化の測定 安静時の循環機能測定 視覚機能の測定(盲斑・対光反射) 未定	遠藤隆志 藤田佳男 松尾真輔 坂崎純太郎
第4・5回	4/30	〃	〃	〃
第6・7回	5/7	〃	〃	〃
第8・9回	5/14	〃	〃	〃
第10・11回	5/21	実習まとめ1	第1クールの実習のまとめを行う	大谷拓哉
第12・13回	5/28	・誘発筋電図 ・反応時間 ・表在感覚 ・循環機能	脊髄反射回路(H反射など)と神経伝導速度の測定 反応時間の計測 触覚、痛覚の分布、2点識別覚など異なる条件下での循環機能	遠藤隆志 稲垣武 成田悠哉 大谷拓哉
第14・15回	6/4	〃	〃	〃
第16・17回	6/11	〃	〃	〃
第18・19回	6/18	〃	〃	〃
第20・21回	7/2	実習まとめ2	実習全体のまとめ(グループワーク)	大谷拓哉
第22・23回	7/9	発表会	実習で学んだ内容の発表	全教員
履修条件	シラバスの先修条件を参照してください。			
予習・復習	予習として、人体の機能で学んだ内容を復習してください。 復習として、実習で学んだ内容をレポートにまとめてもらいます。			
テキスト	特になし			
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	レポート(60%)、発表会への取組(20%)、学習態度(20%)で評価します。			

授業 科目名	体表解剖学 (Body surface anatomy)	履修年次: 必修: 作1年	単位数: 1単位 15時間	担当教員名: 須藤崇行 (作業療法士) (研究室: 東校舎2F)
			コード: RBB204	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕実践に必要な知識, .倫理観とプロフェッショナリズム, .コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、「人体の構造」, 「人体の構造実習」, および「作業運動学」に関する理解を深め、個々の骨・関節や筋の触診ができる知識や能力の修得を目標とする。本科目は、作業療法学、特に身体機能を扱う領域において、運動機能のはたらきが重要であることを理解する。 筋・骨関節の名称、部位を理解する。 筋・骨関節のランドマークを触診できる。				
〔授業の概要〕 作業療法を学修する上で重要な体表解剖について理解を深め、個々の骨・関節・筋の触診ができる知識や能力の修得を図る。本科目では、実際に運動する身体機能(関節や筋)を体表から確認することで、学生相互による触診技術の修得を主とする。				
キーワード: 体表解剖・人体の構造・運動学				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	1/15	オリエンテーション 骨学	骨学(上肢・下肢・体幹の骨の機能解剖学、ランドマークの触診)	
第2回	1/15	〃	〃	
第3回	1/15	〃	〃	
第4回	1/22	筋学	筋学(上肢・下肢・体幹の筋の機能解剖学、筋の触診)	
第5回	1/22	〃	〃	
第6回	1/22	〃	〃	
第7回	1/29	〃	〃	
第8回	1/29	まとめ	全体を通したまとめ	
履修条件	「人体の構造」(解剖学)や「作業運動学」を復習して講義に臨むこと。講義は実習が中心であるため、動きやすい服装(ジャージなど)かつジャージなどの下に半袖・半ズボンを着用し、参加すること(触知しやすくするため)。			
予習・復習	「人体の構造」, 「人体の構造実習」, および「作業運動学」の講義内容を整理して講義に臨むこと。講義後は不十分な触診手技について再度確認のこと。			
テキスト	・動療法のための機能解剖学的触診技術 動画プラス 上肢 [Web 動画付] 改訂第2版 ・運動療法のための機能解剖学的触診技術 動画プラス 下肢・体幹 [Web 動画付] 改訂第2版			
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	実技試験 (60%)、日ごろの学習態度 (40%) を総合的に評価する。			

授業 科目名	作業運動学 (作業運動の基礎) Occupational Kinesiology (Basis of Occupational Kinesiology)	履修年次: 必修: 作業1年	単位数: 1単位 30時間 コード: RBB208	担当教員名: 藤田佳男[作業療法士] (仁戸名研究室5)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識, 倫理観とプロフェッショナリズム, コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 作業療法を修得する中で重要な「ひと」の身体の動きについて学ぶ。 1. 力学の基礎と身体との関係を理解することで、「ひとの身体の動き」を説明することができる。 2. 「人体の構造」と「人体の機能」の学習から、「ひとの身体の動き」を理解する。				
〔授業の概要〕 作業療法を学修する上で重要な人体の運動について、運動学的な知識を修得する。本科目では講義に加えて学生相互の実技や体験を用いて、運動学を理解するために必要な身体運動と力学の関係、関節の構造とその動き、筋活動による身体運動について、基本的な事項を整理し、動き・運動・動作について理解する。病院で勤務経験がある作業療法士の実務経験に基づき実施する。				
キーワード: 人体の構造、人体の機能、動き、時間と空間、運動分析				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	10/2	作業療法のための運動学	オリエンテーション、「作業運動学」と「作業療法」	
第2回	10/9	身体運動と力学	生体力学、時間と空間の関係、身体運動と計測、など <input type="checkbox"/>	
第3回	10/16	身体運動と力学	速度・加速度、円運動、筋力と重力、モーメント	
第4回	10/23	身体運動と力学	重心、運動の法則、てこと滑車、仕事とエネルギー <input type="checkbox"/>	
第5回	10/30	生体の構造と機能	人体の構造と機能(関節、筋、腱)と運動学	
第6回	11/6	四肢と体幹の動き	上肢帯の筋とその動き <input type="checkbox"/>	
第7回	11/13	四肢と体幹の動き	肩関節の筋とその動き(1)	
第8回	11/20	四肢と体幹の動き	肩関節の筋とその動き(2) <input type="checkbox"/>	
第9回	11/27	四肢と体幹の動き	肘関節の筋とその動き	
第10回	12/4	四肢と体幹の動き	手関節および手の筋とその動き <input type="checkbox"/>	
第11回	12/11	四肢と体幹の動き	手のアーチと上肢機能、把持パターン	
第12回	12/18	四肢と体幹の動き	下肢帯(骨盤帯)と下肢の関節の動き(1) <input type="checkbox"/>	
第13回	1/8	四肢と体幹の動き	下肢帯(骨盤帯)と下肢の関節の動き(2)	
第14回	1/15	四肢と体幹の動き	顔面、体幹、頸椎・胸椎・腰椎の筋と動き <input type="checkbox"/>	
第15回	1/22	四肢と体幹の動き	まとめ	
	1/29	予備日		
履修条件		特になし		
予習・復習		予習としてテキストを熟読のこと。「人体の構造」及び「人体の機能」を復習しておくこと。復習には配布資料を用いることを推奨する。		
テキスト		中村隆一: 基礎運動学第6版補訂, 医歯薬出版.		
参考書・参考資料等		中村隆一: 運動学実習, 医歯薬出版. 塩田悦人 他訳: カバンディ関節の生理学全3巻, 医歯薬出版 青木隆明監修: 運動療法のための機能解剖学的触診技術. MEDICAL VIEW		
学生に対する評価		定期試験(50%), 課題/小テスト(40%), 授業態度(10%)により総合的に評価する。		

30分以上の遅刻は欠席として扱う。

触診や実技体験を多く含むため、動きやすく触診されやすい服装で参加すること。

は小テスト予定日である



授業 科目名	作業運動学 (作業運動の応用) Occupational Kinesiology (Developments of Occupational Kinesiology)	履修年次： 必修：作2年	単位数： 1単位 30時間 コード：RBB209	担当教員名： 須藤崇行 (研究室：東校舎2F)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識, 倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 作業療法における身体的運動について、基本的知識に基づき応用的に理解する。 1. 運動を調節する機能を理解する。 2. 運動についての分析的考え方を理解する。 3. 人間の動きを総合的に観察、分析する手法を理解する。				
〔授業の概要〕 作業療法を学習する上で重要な人体の運動(動き)について、運動学的な知識を習得する。本科目では、作業運動学の知識を基盤として、姿勢の調節、上肢運動、手の機能、歩行などについて、運動分析学的な事項を整理し、基礎作業学における作業分析と関連させながら、生活に必要な諸動作への理解を図る。 キーワード：随意運動、呼吸循環、エネルギー代謝、姿勢、歩行、上肢・手指機能、運動学習				
〔授業計画〕 内容にある『基礎運動学 第6版』のページ範囲を前もって参照しておくこと。				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	4/12 2限	オリエンテーション	オリエンテーション	
第2回	4/19 2限	筋収縮のメカニズム	筋収縮の生理	
第3回	4/26 2限	神経系の機能と構造	神経系と随意運動	
第4回	5/10 2限	神経系の機能と構造	神経系と随意運動	
第5回	5/17 2限	上肢の運動	上肢の運動の特徴	
第6回	5/24 2限	上肢の運動	上肢の運動の特徴	
第7回	5/31 2限	下肢の運動	下肢の運動の特徴	
第8回	6/7 2限	下肢の運動	下肢の運動の特徴	
第9回	6/14 2限	頭部の運動	顔面、咀嚼、嚥下運動	
第10回	6/21 2限	姿勢	姿勢とその制御	
第11回	6/28 2限	歩行	歩行の基礎知識	
第12回	7/5 2限	運動・動作の分析	運動分析	
第13回	7/12 2限	運動学習	運動学習理論	
第14回	7/19 2限	運動学習	運動学習理論	
第15回	7/26 2限	まとめ	全体を通したまとめ	
履修条件		特になし		
予習・復習		講義の都度に資料の整理に努め、内容の確認を行うこと。		
テキスト		基礎運動学 第6版 医歯薬出版		
参考書・参考資料等		指定しない。授業の中で適宜紹介する。		
学生に対する評価		定期試験(80%)、日ごろの学習態度(20%)により総合的に評価する。		

授業 科目名	作業運動学演習 Clinical Kinesiology	履修年次:	単位数:	担当教員名: 須藤崇行(作業療法士) 竹内弥彦(理学療法士) (研究室:東校舎2F)
		選択:作2年	2単位30時間	
			コード:RBB210	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識, コミュニケーション能力, 倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・健常者の基本動作パターンを観察・分析し、記述表現することができる。</li> <li>・骨関節疾患、中枢神経系疾患患者の基本動作における運動学的特性を理解する。</li> <li>・客観的データに基づき、動作に適した筋収縮、支持基底面と重心位置、身体アライメントの関係を記述表現できる。</li> </ul>				
〔授業の概要〕				
臨床や研究場面で用いられる動作分析およびデータ処理の手法について学ぶ。動作分析の基本となる身体合成重心、足圧中心、支持基底面、およびそれらの相互関係の概念を理解し、基本的動作の観察、その分析手法および記録・記述方法について、客観的データを基に学習する。さらに、運動器疾患における基本動作の運動学的特性について講義する。(本授業はオムニバス方式により行う。)				
キーワード: 運動学、運動力学、動作・運動分析				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	4/11	講義のガイダンス	受講に関する注意事項、成績評価方法などの説明、姿勢分析の説明	須藤
第2回	4/18	姿勢分析1	姿勢分析の理解1	須藤
第3回	4/25	姿勢分析2	姿勢分析の理解2	須藤
第4回	5/2	姿勢分析3	姿勢分析の理解3	須藤
第5回	5/9	姿勢分析4	姿勢分析の理解4	須藤
第6回	5/16	姿勢分析5	姿勢分析の理解5	須藤
第7回	5/23	臨床動作分析の展開	正常動作パターンの多様性、臨床動作分析の進め方	竹内
第8回	5/30	クイフォークの運動学	運動様式による平衡反応の分類	竹内
第9回	6/6	基本動作の運動分析 1)	寝返り、起き上がり動作の分析1)	竹内
第10回	6/13	基本動作の運動分析 2)	寝返り、起き上がり動作の分析2)	竹内
第11回	6/20	基本動作の運動分析 3)	3次元動作解析装置データによる立ち上がり動作の分析 1)	竹内
第12回	6/27	基本動作の運動分析 4)	3次元動作解析装置データによる立ち上がり動作の分析 2)	竹内
第13回	7/4	歩行	歩行周期と各相の機能的役割	竹内
第14回	7/11	運動器疾患の動作分析	変形性関節症患者の動作分析	竹内
第15回	7/18	総括	科目全体に関する総括、質疑応答	須藤
履修条件	特になし			
予習・復習	予習として運動学関連科目の該当箇所を確認する。			
テキスト	授業時の適宜配布資料			
参考書・参考資料等	基礎バイオメカニクス 医歯薬出版 「動作分析 臨床活用講座」メディカルビュー			
学生に対する評価	課題(60%)、小テスト(20%)、授業時の学習態度(20%)により総合的に評価する。			

授業科目名	作業運動学実習 Exercises for Occupational Kinesiology	履修年次 必修：作2年	単位数： 1単位 45時間	担当教員名： 科目責任者 須藤崇行 (研究室：東校舎2) 藤田佳男、松尾真輔、 成田悠哉 (全員作業療法士)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識, . コミュニケーション能力, 倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 作業運動学的知識を実験実習により深めることで、人間の動き・動作・運動を理解する。 1. 作業運動の計測手法を理解する。 2. 計測の結果から、各種作業・運動についてのメカニズムを理解する。				
〔授業の概要〕 作業療法を学習する上で重要な人体の運動(動き)について、運動学的な知識を習得する。本科目では、各種標本や学生相互の実験による実習形式により、測定結果からの考察を用いて、応用的な内容を理解する。作業活動時に重要となる手指の把持・把握機能や上肢の動き、諸動作時の重心移動や動作の分析、表面筋電図などの基本的な測定からの運動学的な理解と運動学習などを含む内容とする。 キーワード：生体力学、姿勢、上肢・手の動作、筋活動、動作のズレ・テポ、計測手法				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	10/3	概説	実習計画、その他説明	須藤
第2回	10/10	実習	重心(生体力学 p51~57) 歩行(動作 p121~132) 筋活動(p79~93) 手の動作(動作 p133~144)	松尾 藤田 須藤 成田
第3回	10/17			
第4回	10/24			
第5回	10/31			
第6回	11/7	実習	上肢の動作(動作 p145~149) 運動学的分析 (運動学実習第3版 p69~74) 動作のズレ・テポ (p151~158) 姿勢の違いによる肺気量、肺機能の反応	松尾 藤田 須藤 成田
第7回	11/14			
第8回	11/21			
第9回	11/28			
第10回	12/5	発表のオリエンテーション	発表や役割についての説明・準備	須藤
第11回	12/12		予備日、発表の準備など	各担当教員
第12回	12/19			
第13回	1/9			
第14回	1/23			
第15回	1/30	実習のまとめ	グループ発表	全員
履修条件	特になし			
予習・復習	実習前に作業運動学 で学んだ内容をその都度復習して実習に臨むこと。			
テキスト	配布する実習の手引き、PT・OT 学生のための運動学実習 三輪書店			
参考書・参考資料等	運動学実習 第3版			
学生に対する評価	レポート(80%)、課題(まとめと発表)(10%)、学習態度(10%)を総合的に評価する。			

授業 科目名	作業分析学 Occupation Analysis	履修年次: 選択：作2年	単位数: 1単位15時間	担当教員名: 有川 真弓 〔作業療法士〕 (研究室:仁戸名研究棟4)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 倫理観とプロフェッショナリズム 健康づくりの実践 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
1) 作業療法で作業を治療手段として適応するとはどういうことかを理解する 2) 障害者体験を通して対象者の経験を疑似的に経験する．活動参加と環境を考える 3) 自己の作業歴の分析を通して，対象者のライフヒストリーへの視点の重要性を理解する				
〔授業の概要〕				
作業療法の治療・援助の手段である作業に関する基礎知識を身につける。作業活動に含まれる機能要素（運動・感覚・知覚・認知・心理社会等）や、作業活動が遂行される環境の影響、（社会 文化的、物理的等）作業が持つ主観的側面（生活歴・作業歴・興味・価値等）を自己の経験と照らし合わせて分析、考察する。本科目は作業療法士の実務経験に基づき行われる。				
キーワード: 作業活動分析, 工程分析, 作業適応				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	5/30(10:45-11:30)	オリエンテーション	目標の理解、分析の方法、課題の確認	
第2回	6/6	作業適応と段階付け	障害者への作業適応のための作業分析	
第3回	6/13	作業適応と段階付け	障害者への作業適応のための作業分析	
第4回	6/20	作業適応と段階付け	障害体験と作業分析	
第5回	6/27	作業適応と段階付け	障害体験と作業分析	
第6回	7/4	作業活動の分析	ライフヒストリー・作業歴の分析	
第7回	7/11	作業活動の分析	ライフヒストリー・作業歴の分析	
第8回	7/18	発表	実習・演習結果の発表	
履修条件		特になし		
予習・復習		予習は基礎作業学・演習, 作業療法概論 (ICF) の見直し, 復習は演習内容のふり返しを行うこと		
テキスト		ひとと作業・作業活動, ICF 国際生活機能分類		
参考書・参考資料等		適宜紹介する		
学生に対する評価		レポート課題 (80%), 発表・学習態度 (20%) により総合的に評価する。		

授業 科目名	人間工学 (Human factors and Ergonomics)	履修年次： 選択：理・作2年	単位数： 1単位30時間	担当教員名： 科目責任者 下村 義弘 高原良[会社代表取締役]、 竹内弥彦[PT]、吉野智佳子 [OT]（全員非常勤講師）
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識、倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 この講義では、人間とそれを取り巻く機器や環境、運用の全体を考えて健康増進を図るという人間工学の基礎を学ぶ。また福祉・リハビリテーションの現場、あるいは医療・福祉・労働などの応用テーマを取り上げ、最新知見とともに論理的な評価や設計の手法についても学ぶ。学生の学習目標は以下の通り。人間工学そのものを理解する、人間工学とそれぞれの専門性との関係を自ら考える、人間工学で使われる基礎的手法の一部を理解する。				
〔授業の概要〕 本授業では4つのテーマを根幹に据えて、演習を交えながら人間工学について講義する。1.人間の特性を知り、それに合わせた製品や環境、やり方の実践方法を学ぶ。2.日常生活における身近な題材をもとに、自分自身で人間の特性を実感しながら問題発見とその課題化の意識を学ぶ。3.バイオメカニクスの観点から人間を科学的に検討、探求することを学ぶ。4.労働環境やそこにおける健康問題を通して、実学としての人間工学を学ぶ。 ----- キーワード:ヒトの計測と評価、機器や環境の設計、				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	10/2	人間工学とデザイン	人間工学の有用性	下村 義弘
第2回	10/9	日常生活と人間工学	身近な日常生活の中の工学	吉野 智佳子
第3回	10/16	日常生活と人間工学	「座る」を計る	吉野 智佳子
第4回	10/23	日常生活と人間工学	取り巻く環境と人間の暮らしやすさ	吉野 智佳子
第5回	10/30	人間工学とデザイン	デザインの発想の仕方・評価の仕方	下村 義弘
第6回	11/6	人間工学とデザイン	生体機能の点からの支援の考察	下村 義弘
第7回	11/13	人間工学とデザイン	自身の専門領域と人間工学をつなぐ	下村 義弘
第8回	11/20	労働環境と人間工学	人に配慮した家具デザインの実践	高原 良
第9回	11/27	労働環境と人間工学	人に配慮した空間デザインの実践	高原 良
第10回	12/4	労働環境と人間工学	健康増進を促す職場環境づくり	高原 良
第11回	12/11	労働環境と人間工学	テレワークへの対応	高原 良
第12回	12/18	身体運動のバイオメカニクス	生体力学パラメーター	竹内 弥彦
第13回	1/8	身体運動のバイオメカニクス	関節モーメント(筋力)を計る	竹内 弥彦
第14回	1/15	身体運動のバイオメカニクス	加速度センサを用いた身体運動計測	竹内 弥彦
第15回	1/22	身体運動のバイオメカニクス	転倒回避動作のバイオメカニクス	竹内 弥彦
履修条件	大学の規定に従う。			
予習・復習	配布されたレジュメや資料、自身がとった授業のノートを復習に活用すること。			
テキスト	担当教員が作成したテキストを使用する。			
参考書・参考資料等	講義中に適宜紹介などする。			
学生に対する評価	各教員による課題レポート(90%)、日ごろの学習態度(10%)により総合的に評価。			

授業 科目名	人間発達学 Human development	履修年次:	単位数:	担当教員名: 有川 真弓 [作業療法士] (研究室:仁戸名研究棟4)
		必修:理・作2年	1単位30時間	
		実務経験のある教員による授業科目	コード:RBB214	
〔DP〕 . 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 人はこの世界に生まれることによって、世界の環境の一員となり、環境との相互作用を始める。生活の中で体験する出来事を通して、個々人の様々な力を獲得し発達していく。人が発達していく過程を理解することで、発達過程の中で障害そのものがどのように影響するのかという観点から障害を理解することを目的とする。				
〔授業の概要〕 本科目では、胎児から発達学的な成長・生育の過程とその月齢指標や精神認知機能の発達と包括して、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、青年期、成人期、老年期などについて、各段階の発達過程について理論的背景から理解する。本科目は作業療法士の実務経験に基づいた講義形式で行われる。 キーワード: 人間発達, 発達過程, 社会生活活動の発達, ライフステージと発達課題				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	4/11	人間発達学概論	オリエンテーション、発達の概念、原則、発達課題	
第2回	4/18	発達過程の各機能の発達	姿勢と運動の発達1	
第3回	4/25	発達過程の各機能の発達	姿勢と運動の発達2	
第4回	5/2	発達過程の各機能の発達	姿勢と運動の発達3	
第5回	5/9	発達過程の各機能の発達	姿勢と運動の発達4	
第6回	5/16	発達過程の各機能の発達	視機能・上肢機能の発達1	
第7回	5/23	発達過程の各機能の発達	視機能・上肢機能の発達2	
第8回	5/30	発達過程の各機能の発達	視機能・上肢機能の発達3	
第9回	6/6	発達過程の各機能の発達	認知機能の発達1	
第10回	6/13	社会生活活動の発達	認知機能の発達2	
第11回	6/20	社会生活活動の発達	コミュニケーションの発達	
第12回	6/27	社会生活活動の発達	コミュニケーションの発達	
第13回	7/4	社会生活活動の発達	ADLの発達	
第14回	7/11	社会生活活動の発達	摂食嚥下体験・ADLの発達	
第15回	7/18	社会生活活動の発達	摂食嚥下体験・ADLの発達	
履修条件	特になし			
予習・復習	予習としてテキストを熟読のこと。復習にはレジメの見直しを行うこと。			
テキスト	人間発達学(標準理学療法学・作業療法学)医学書院			
参考書・参考資料等	適宜紹介する			
学生に対する評価	学期末試験(100%)により評価する。			

授業 科目名	医学総論 Outline of medicine	履修年次：	単位数：	担当教員名： 金子 徹 〔リハビリテーション科医師〕 (研究室：仁戸名 2)
		必修：理・作 1 年	1 単位 15 時間	
		実務経験のある教員による授業科目	コード：RBB215	
〔DP〕 実践に必要な知識、倫理観とプロフェッショナリズム、コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
理学療法士・作業療法士に必要な医学・医療の基本的知識の獲得を目標とする。科学的根拠(サイエンス)に基づいて医学的基本知識を修得することはもちろんであるが、その知識や今後修得する治療技術は「社会で生活する患者という人間」に合わせて適応することが、「アート」であることを十分に理解・体得する。				
〔授業の概要〕				
理学療法・作業療法を実施する上で重要な、単に治療技術のみに偏らない医療従事者としての基本的な素養を身につけるため、日本の医療システム、生命の尊厳や医の倫理などについて、基本的な知識を修得する。本科目は講義形式ではあるが、生命とはなにか、医学とはなにか(医学史を含む)、インフォームドコンセントや患者・治療者関係における基本的な態度を含め、医療と社会の関係を理解し学生自らが考えることを目的とする。整形外科・リハビリテーション科医師の実務経験に基づき学修の支援を行う。				
キーワード：サイエンス、アート、生老病死、医学史、インフォームド・コンセント				
〔授業計画〕				
回数	日付	テ - マ	内 容	
第1回	10/3	医学と医療	科学的根拠に基づく医療、サイエンスとアート	
第2回	10/10	日本の医療システム	医療保険制度、医療法、医薬品医療機器等法	
第3回	10/17	生老病死( )	生老病死、生命、健康	
第4回	10/24	生老病死( )	老化、病気、疾病分類	
第5回	10/31	生老病死( )	死因、死の判定、脳死、尊厳死、法医学	
第6回	11/7	医学・医療の歴史	医学・医療史	
第7回	11/14	予防医学・医の倫理	公衆衛生、保健所、公害、インフォームドコンセント	
第8回	11/21	現代医療の課題	医療訴訟、生殖医療、移植、代替医療	
履修条件	特になし。			
予習・復習	医学・医療関係のニュースに注目していること。 復習にはレジユメの見直しを推奨。			
テキスト	指定しない。			
参考書・参考資料等	「学生のための医療概論 第4版」小橋 元 他編 医学書院刊			
学生に対する評価	定期試験(90%)、日ごろの学習態度(10%)により評価する。			

授業 科目名	内科学総論 (Internal Medicine)	履修年次	単位数：	担当教員名： 山本 達也 [脳神経内科医師] (研究室：仁戸名9)
		必修:理・作2年	1単位 30時間	
			コード：RBB216	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識 倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 内科疾患診療の基本について、臨床医学の最近の動向に関する公開資料などを活用しながら、病態に基づいた診療技術の観点から教授する。まず、臨床医学における内科疾患の位置づけと意義を総合的に把握することから始め、身体の診察技術や検査法ならびに多様な治療法の基本を学修する。目標としては 内科的診断法、治療法の概要について説明できる。 主要な内科的疾患の治療の中で、理学・作業療法の果たす役割について説明できる。				
〔授業の概要〕 主要な内科疾患の診断法および治療法について講義を行う。理解を助けるために適宜動画を組み入れて具体的な説明をおこなう。授業内容の概要はハンドアウトとして各講義の最初に提供し、次回講義前には理解確認のための小テストを課し、講義内容を確認するとともに発展的学修を促す。総合内科専門医、脳神経内科専門医の実務経験に基づき講義する。 キーワード：内科診断学、臨床検査、薬物治療				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	4/8	診療の基本	内科診療の基本	
第2回	4/15	内科診断学総論	医療面接、身体診察	
第3回	4/22	全身的な徴候	内科診療でよくみられる全身的徴候	
第4回	5/13	緊急性の高い徴候	急性腹症、意識障害、呼吸困難、急性冠症候群、消化管出血	
第5回	5/20	身体診察の基礎	理学的診察の基礎	
第6回	5/27	身体診察	胸部・腹部所見	
第7回	6/3	検体検査	検査値の解釈、主要な血液検査項目	
第8回	6/10	生理検査	心電図、呼吸機能	
第9回	6/17	画像検査	胸腹部CT	
第10回	6/24	内科治療総論	内科疾患の治療に関する基本的な考え方	
第11回	7/1	薬物療法1	薬理学の基本	
第12回	7/8	薬物療法2	理学・作業療法施行中に注意すべき薬物	
第13回	7/22	人工臓器	人工透析・レスピレーター、ペースメーカー	
第14回	7/29	老年科学入門	サルコペニア、フレイル対策など	
第15回	7/30	まとめ	全体のまとめ	
履修条件	特になし			
予習・復習	予習：教科書の該当部分を熟読 復習：配布プリントと教科書の復習			
テキスト	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学(第4版) 医学書院			
参考書・参考資料等	特になし			
学生に対する評価	定期試験 90%、学習態度 10%			



授業 科目名	内科学各論 (Internal Medicine)	履修年次: 必修:理・作2年	単位数: 1単位30時間	担当教員名: 科目責任者 山本 達也 (脳神経内科医師) (研究室:仁戸名9) 太和田 暁之(内科医師)
		実務経験のある教員による授業科目		
		〔DP〕 実践に必要な知識, 倫理観とプロフェッショナリズム		
〔授業の到達目標及びテーマ〕 内科学総論で学んだ内科診療の基本的知識を踏まえ、主要な内科疾患の病態、診断、治療の概要について学び、治療体系の中で、理学・作業療法の果たす役割について学修する。到達目標としては ・主要な内科疾患の病態・診断について説明できる。 ・主要な内科的疾患の治療の中で、理学・作業療法の果たす役割について説明できる。				
〔授業の概要〕 主要な内科疾患の病態および講義を行う。授業内容の概要はハンドアウトとして各講義の最初に提供する。次回授業時には理解確認のための小テストを行い、講義内容を確認するとともに発展的学修を促す。内科医としての実務経験に基づいて講義を行う。				
キーワード:循環器、呼吸器、血液、消化器、腎、代謝内分泌、感染症、膠原病				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	10/4	循環器疾患	高血圧、心不全	山本 達也
第2回	10/4	循環器疾患	不整脈、虚血性心疾患	山本 達也
第3回	10/11	呼吸器疾患	誤嚥性肺炎、閉塞性疾患	山本 達也
第4回	10/11	呼吸器疾患	肺癌、肺血栓塞栓症	山本 達也
第5回	10/18	血液疾患	赤血球系の疾患、出血性疾患	山本 達也
第6回	10/18	血液疾患	腫瘍性血液疾患(白血病、悪性リンパ腫)	山本 達也
第7回	10/25	消化器疾患	消化管疾患	太和田 暁之
第8回	10/25	消化器疾患	肝胆膵疾患	太和田 暁之
第9回	11/1	腎臓疾患	糸球体疾患・尿管・間質性病変	山本 達也
第10回	11/1	感染症	感染症の診断、治療	山本 達也
第11回	11/8	代謝性疾患	糖尿病、脂質異常症	山本 達也
第12回	11/8	内分泌疾患	下垂体、副腎、甲状腺	山本 達也
第13回	11/15	自己免疫疾患	免疫系、アレルギー疾患	山本 達也
第14回	11/15	自己免疫疾患	膠原病	山本 達也
第15回	11/22	まとめ	授業全体のまとめ	山本 達也
履修条件	内科学総論を履修していることが望ましい。			
予習・復習	予習:教科書の該当部分を熟読 復習:配布資料と教科書内容の対応確認			
テキスト	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学(第3版) 医学書院			
参考書・参考資料等	特になし。			
学生に対する評価	定期試験 90%、学習態度 10%			

授業 科目名	神経内科学総論 Neurology	履修年次:	単位数:	担当教員名: 山本 達也 [脳神経内科医師] (研究室:仁戸名9)
		必修:理・作2年	1単位30時間	
		実務経験のある教員による授業科目	コード:RBB218	
〔DP〕 実践に必要な知識、倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では理学療法・作業療法を実施する上で関連の深い脳神経内科学の基本的な考え方、問診・診察法の習得を目標に、以下のテーマで講義を進めていく。 脳神経内科総論 問診 意識障害・高次脳機能障害 脳神経の障害 運動障害 感覚障害 歩行障害・不随意運動 自律神経障害 検査				
〔授業の概要〕 神経系の障害で起こりうる症候を部位別に整理し、その診察法、検査法を習得し、病態について理解する。また、神経疾患の総合的な診断学、治療学を習得する。脳神経内科専門医の実務経験に基づき講義する。				
キーワード:脳神経内科学、症候、病態、診察、検査				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	4/8	脳神経内科とは	脳神経内科学の紹介	
第2回	4/15	神経疾患総論	脳神経内科で扱う神経疾患の紹介	
第3回	4/22	神経疾患の問診	問診から臨床診断へのプロセス	
第4回	5/13	意識障害	意識障害とその原因	
第5回	5/20	高次脳機能障害1	記憶・認知の障害	
第6回	5/27	高次脳機能障害2	言語・行為の障害	
第7回	6/3	脳神経	脳神経とその障害	
第8回	6/10	運動障害1	筋緊張・筋力・筋萎縮	
第9回	6/17	運動障害2	運動失調・錐体外路症状	
第10回	6/24	感覚障害・反射	表在感覚・深部/固有感覚・皮質感覚、腱反射・病的反射	
第11回	7/1	歩行障害	歩行障害の分類と原因疾患	
第12回	7/8	不随意運動	不随意運動の分類と原因疾患	
第13回	7/22	自律神経障害1、検査	心血管系・発汗障害、髄液検査、生理学的検査	
第14回	7/29	自律神経障害2	排泄障害	
第15回	7/30	まとめ	全体のまとめ	
履修条件	人体の構造（筋・骨・神経系の構造）を履修していることが望ましい。			
予習・復習	予習としてテキストを熟読のこと。復習にはノートの見直しを推奨。			
テキスト	「脳神経内科学」 高橋伸佳編・著 理工図書			
参考書・参考資料等	特になし。			
学生に対する評価	定期試験（90%）、学習態度（10%）			

授業 科目名	神経内科学各論 Neurology	履修年次:	単位数:	担当教員名: 山本 達也 [脳神経内科医師] (研究室:仁戸名9)
		必修:理・作2年	1単位30時間	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識, 倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では理学療法・作業療法を実施する上で関連の深い、脳神経内科学領域における各疾患についての知識を習得できることを目標に、以下のテーマで講義を進めていく。 機能的疾患、脳血管障害、認知機能障害、神経変性疾患、自己免疫性疾患、自己免疫性疾患、神経感染症、脊髄疾患、末梢神経疾患、筋疾患				
〔授業の概要〕 脳神経内科領域の各疾患について、臨床症状、検査法、治療法、病因、予防法、経過と予後などを学習する。脳神経内科領域の診療における最新の知見も紹介する。総合内科専門医、脳神経内科専門医の実務経験に基づいて講義する。				
キーワード:脳神経内科疾患、検査、診断、原因、治療				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	10/7	機能的疾患	頭痛・てんかん	
第2回	10/21	脳血管障害(1)	脳梗塞	
第3回	10/28	脳血管障害(2)	脳出血、クモ膜下出血	
第4回	11/11	認知機能障害(1)	アルツハイマー型認知症	
第5回	11/18	認知機能障害(2)	レビー小体型認知症	
第6回	11/25	神経変性疾患(1)	パーキンソン病	
第7回	12/2	神経変性疾患(2)	パーキンソン症候群	
第8回	12/9	神経変性疾患(3)	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症含む)	
第9回	12/16	神経変性疾患(4)	運動ニューロン疾患	
第10回	12/23	自己免疫性疾患(1)	多発性硬化症、視神経脊髄炎	
第11回	1/6	自己免疫性疾患(2)	重症筋無力症、炎症性筋疾患	
第12回	1/20	神経感染症	髄膜炎、脳炎、プリオン病	
第13回	1/27	脊髄疾患	脊髄炎、脊髄血管障害、脊髄空洞症	
第14回	1/29	末梢神経疾患	ギランバレー症候群、糖尿病性ニューロパチーなど	
第15回	2/3	まとめ	授業全体のまとめ	
履修条件	脳神経内科学総論を履修していることが望ましい。			
予習・復習	予習としてテキストを熟読のこと。復習にはノートの見直しを推奨。			
テキスト	「脳神経内科学」 高橋伸佳編・著 理工図書			
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	定期試験(90%)、学習態度(10%)			

授業 科目名	整形外総論 General orthopedics	履修年次： 必修：理・作 2年	単位数： 1 単位 30 時間	担当教員名： 金子 徹 〔リハビリテーション科医師〕 (研究室：仁戸名 2)	
		実務経験のある教員による授業科目			コード：RBB305
		〔DP〕 実践に必要な知識, 倫理観とプロフェッショナルリズム, コミュニケーション能力			
〔授業の到達目標及びテーマ〕 運動器の外科である整形外科学の知識を、理学療法・作業療法と関連づけて修得することを目標とする。解剖学・生理学・病理学・運動学の知識を基礎として、整形外科学的診断・治療・合併症を理解し、専門用語を用いて、説明できることを目標とする。					
〔授業の概要〕 運動器（骨・関節）の構造と機能を再確認しつつ、運動器疾患の病態を理解する。整形外科的検査法、症候学、診断学（画像診断学を含む）、治療法（保存的治療・観血的治療）、合併症を理解することを目的とする。整形外科学総論と各論は、一連の流れとして講義を行うが、整形外科医師・リハビリテーション科医師の実務経験に基づき学修の支援を行う。					
キーワード：運動器、診断学、保存治療、手術療法、外傷学					
〔授業計画〕					
回数	日付	テーマ	内 容		
第1回	4/9	整形外科の歴史	Orthopedie、整形外科、口コモ		
第2回	4/16	整形外科学的診察	問診、視診		
第3回	4/23	画像診断	単純X線、CT、MRI、造影検査、PET		
第4回	4/30	検査法（補助診断法）	触診、生体検査、身体計測		
第5回	5/7	整形外科学的治療法1	保存治療、薬物療法、装具療法		
第6回	5/14	整形外科学的治療法2	手術療法1		
第7回	5/21	整形外科学的治療法3	手術療法2、麻酔		
第8回	5/28	外傷1	軟部組織損傷		
第9回	6/4	外傷2	熱傷、骨折、脱臼、後遺症		
第10回	6/11	慢性関節疾患	変形性関節症、痛風、血友病		
第11回	6/18	リウマチ・感染症	関節リウマチ、強直性脊椎炎、骨髄炎		
第12回	6/25	小児整形外科	発育性股関節形成不全、斜頸、先天性内反足、二分脊椎		
第13回	7/2	腫瘍、骨系統疾患	良性骨腫瘍、悪性骨腫瘍、骨系統疾患		
第14回	7/9	神経・筋疾患	末梢神経障害、脳性麻痺、筋ジストロフィー		
第15回	7/16	代謝・内分泌疾患	骨粗鬆症、代謝・内分泌疾患		
履修条件	人体の構造、人体の機能、病理学、運動学と関連づけて学習すること。				
予習・復習	予習としてテキストを熟読のこと。復習にはレジユメの見直しを推奨。				
テキスト	「整形外科学テキスト 改訂第4版」高橋 邦泰編 南江堂刊				
参考書・参考資料等	「標準整形外科学 第14版」中村 利孝編 医学書院刊 など				
学生に対する評価	定期試験（90%）、日ごろの学習態度（10%）により評価する。				